

第 38 回日本認知症学会学術集会（2019 年 11 月 7-9 日）で血中アミロイドタンパク質について 2 つの発表を行いました。また熊本地震後の MCI スクリーニング検査の変動についての発表がありました。

【詳細】

演題名:熊本地震後の A β 排泄関連バイオマーカー変化及び海馬体積減少における性差

武蔵ヶ丘病院 佐藤正先生のご発表です。

平成 28 年 4 月に発生した熊本地震は 2 度の震度 7 (M6.5, M7.3) と長期間の余震活動が特徴で、多くの家屋被害と住民に持続する強いストレスを発生させました。

この研究では、地震発生 6 ヶ月前から発生後 3 年まで、認知症ではない高齢者において、MCI スクリーニング検査の A β 排泄関連血液バイオマーカー (ApoA1、TTR、C3) と、頭部 MRI 検査の VSRAD 分析による脳萎縮を解析しました。

これらの 3 つのマーカーの血中濃度が地震発生後 6 ヶ月に減少し、その後回復しました。興味深いことに、血液バイオマーカーと MRI で海馬の萎縮度合いに男女差があり、地震後の海馬の萎縮度は、女性より男性のほうが高く、血液バイオマーカーがその変化と相関していました。大規模災害発生時の MCI リスクの把握や認知症予防等のリスク管理における、血液バイオマーカーの有用性を示唆するものです。

演題名: 血中 A β 40, A β 42 ならびに A β クリアランスタンパク質の MCI バイオマーカーの臨床有効性

当社の研究員の伊藤が発表しました。

血漿 A β 40、A β 42、BASE1 ならびに血清中の A β クリアランスタンパク質 (MCI スクリーニング検査: ApoA1, TTR, 補体 C3) の測定を行い、その臨床有効性について検討しました。

A β 40/A β 42 比と MCI スクリーニング検査を組み合わせることによって、血液バイオマーカーとして MCI からアルツハイマー病までの病態進行を広くカバーできることが示唆されました。

演題名: Plasma A β in cerebral microbleeds-positive subjects with cognitive impairment

当社の研究員の劉が発表しました。

アルツハイマー病と脳アミロイドアンギオパチー (CAA) は合併することはよく知られています。

CAA のバイオマーカーとして MRI による脳実質の微小出血 (cerebral microbleeds) がありますが、今回血漿 A β 40、A β 40 と cerebral microbleeds の相関をはじめて明らかにしました。脳血管性認知症 (VD) のような脳梗塞、脳出血を起こす血管変化ではなく、A β タンパク質が微小な脳血管障害とアルツハイマー病の進行に関わること、その病態進行が血液中の A β を測定することでわかることが示唆されました。